



東白川小だより

令和6年11月20日(水) No9

教務主任 渡辺 仁

さらに「しっかり学び、しっかり育つ 元気な東っ子」へ

～全国学力・学習状況調査及びそれに関わる質問紙調査の結果より～



今年度4月18日に全国学力学習状況調査(国語・算数の2教科と質問紙調査)が行われ、6年生がこの調査を受けました。この調査の目的は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。」とあります。そこで、毎年調査結果を分析し、今後の指導改善に活かすことにしています。この結果は6年生の4月時の姿が反映されたものですが、ここ数年の調査結果と比較しながら、東白川の教育の在り方を考える貴重な資料として活用していきます。

今年度の学力調査の結果、「国語は全国の平均正答率とほぼ同じで、算数は全国の平均正答率をやや上回り、ともに無回答率は少ない。」ということでした。また、質問紙調査においては、「自分には、よいところがあると思う」「学校に行くのは楽しい」「友達関係に満足している」「人が困っているときには、進んで助けている」「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」との問いに対し、「当てはまる」という回答が、全国平均、岐阜県平均より高い傾向がみられました。以下に、分析結果の一例をあげますのでご参照ください。

今後も、学校・家庭・地域との連携を大切にし、子どもたちのよさを認め励まし、将来の夢や目標に向かってたくましく生きていく児童の育成に取り組んでいきますので、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

調査結果【○：全国平均より高い ●：全国平均よりやや低い】



1. 国語の結果より

- 漢字を文の中で正しく使うことができる力は高い。
- 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする力は高い。
- 提示されている複数の情報と情報を関係付けて考える力はやや弱い。
- 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力はやや弱い。

2. 算数の結果より

- 数量の関係を、□を用いた式に表す力は高い。
- 除数が小数である場合の除法の計算をする力は高い。



- 図形に対する見取図の理解や、直径・円周・円周率の関係についての理解力はやや低い。
- 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する力はやや弱い。
- 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件にあてはまることを言葉と数を用いて記述する力はやや弱い。



3. 児童生徒質問紙の結果より

- 「自分にはよいところがある」「学校に行くのは楽しい」「友達関係に満足している」といった思いは高い。
- 「人が困っているときには、進んで助けている」「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」といった思いは高い。
- 「将来の夢や希望をもっている」とはっきり言える児童は少なめである。



保護者の方へのお願い、(家庭で協力していただきたいこと)

① 基礎的な学力、学習習慣の定着のために

継続した家庭学習：漢字ドリル・計算ドリル・音読など、日々繰り返し行う復習の見届けが大切です。基礎的な学力や学習習慣が身につけていることが、より質の高い学びにつながります。

- ・ **漢字ドリル**：手本を参照し、書き順を確認しながら丁寧に書く。音読み・訓読み、熟語等も併せて覚える。声に出しながら行うとより効果的である。

※漢字ドリルの裏表紙にある「使い方」を参考に、QRコードも有効活用するとよい。

- ・ **計算ドリル**：ノートに問題、途中式を書き、文章問題等では考えを絵や図で表しながら答えを導き出す。答え合わせをして、間違っていれば、どこが間違っているのかを、途中式を確認しながら見付け、再度解く。

※計算ドリルの裏表紙にある「使い方」を参考に、QRコードも有効活用するとよい。

- ・ **音読（・読み聞かせ）**：主な効果として「語彙力・読解力が上がる」「脳の働きが活発になる」「集中力が高まる」「コミュニケーション能力が高まる」「滑舌がよくなる」等が挙げられる。

※子どもの目の前に座り、向き合って音読を聞くことで、子どもは「聞いてもらっている」と感じ、意欲を高める。それが学習効果の向上につながる。

◎ できたことをほめる姿勢がよいです。間違いを叱ることはせず、さりげなく「〇〇だね」と教え、できたり、上達したりした姿や頑張る姿をほめると、子どもはより意欲的になります。



② コミュニケーション活動の活性化のために

【コミュニケーション能力とは】

自分の思いや考えを相手にわかりやすく表現する
相手の思いや考えを理解しようと思って聞く
自分と相手がよりよい関係を築けるようにする

【コミュニケーション能力の向上で得る主な力】

自分の感情をコントロールできる
自分の思いや考えを表現できる
相手の思いや考えを読み取ることができる

コミュニケーション能力を高めることで、学習効果を上げるとともに、自己肯定感・有用感を高めます。そのために、以下のことを意識して子どもと会話をするとよいです。

【子どもが話すペースに合わせて、最後までじっくり聞く】



子どもが話すペースに合わせて、最後まで話を聞く姿勢が大切です。子どもは、自分の考えを相手に伝えようと自分なりに言葉を選んだり、伝える順番を考えたり、話す内容をまとめたりしています。自分の気持ちを説明しているときに話を遮ってしまうと、子どもの思考は停止し、混乱して言葉が出なくなったり、忘れてしまったりしてしまいます。これでは、コミュニケーション能力は鍛えられません。

子どもがスムーズに話せない時には、もどかしく感じ、イライラしてしまうこともあります。子どものペースを乱さず、話し終わるまで気長に待つことが大切です。その姿勢により、「ぼく（わたし）の目を見て最後まで聞いてくれる」と感じ、話すのを楽しむようになるばかりか、人の話を最後まで聞くようになり、うまくコミュニケーションが図れるようになります。

【オープンクエスチョンを心がける】

オープンクエスチョンとは、回答が「はい」「いいえ」の2択ではなく、自由に回答できるような質問のことです。「おもしろいね。もっと詳しく説明してみて。」「よく考えたね。なぜそう思ったの?」といった質問を投げかけるなどして、言葉のキャッチボールを続けることで、どんどん話すようになります。



【子どもの発言を否定しない・遮らない】

親が子どもの話を否定したり遮ったりしていると、子どもは自分の発言に自信をなくしてしまうことがあります。「○○するのは嫌だ」「△△は面倒だ」の発言には親は怒りたくなりますが、一旦は受け入れ、共感してあげましょう。子どもの気持ちを認めただけで、子どもの言葉にしっかりと耳を傾け、その思いや考えを理解しようとする親の姿勢は、子どもを安心させ、会話の内容を深めさせるとともに、自分の存在を大切にしてくれていると感じ、それが自己肯定感・有用感につながっていきます。

③地域活動・体験活動等への積極的な参加を

【地域活動・体験活動等への参加の効果】

- ・コミュニケーション能力を高める
- ・将来の夢や希望を描くきっかけになる
- ・地域社会への貢献度を上げる
- ・社会性を高める



多様な人と接することは社会経験を豊かにし、コミュニケーション能力を高めることにつながります。また、さまざまな年代の人との交流は、新たな自分に気付いたり、異なる価値観を知ることができたりする機会にもなります。そして、そのことが将来の夢や希望を描くきっかけにつながることもあります。家族みんなで参加できるとさらによいです。